

ビーチコーミングで海鳥と出会う（その1） —ビーチコーミングって知ってますか？—

ひょうちやくぶつ

海辺に流れ着いた物（漂着物）を拾い集めることをビーチコーミング（Beach Combing）と言い、最近多くの人たちが漂着物に関心を寄せるようになってきました。こうした漂着物から得られる情報を交換し、体系付け、より深く理解しようとすることを目的とした「漂着物学会」*も設立されています。

海岸線は、海と陸とが出会う場所です。海の生き物が打ち寄せられるほか、川を流れ下った山地の樹木や木の実、街の人工物も見られます。また、海外からの漂着物が流れ着く事もあります。ビーチコーミングには、まるで海岸線という窓から広い世界を眺めているような楽しみがあります。



※漂着物学会

〒789-1911高知県幡多郡黒潮町浮鞭3573-5

NPO法人砂浜美術館事務局内 (<http://www.drift-japan.net/>)



ビーチコーミングで海鳥と出会う（その2） ービーチコーミングで出会う海鳥ー

海岸線を歩くと、衰弱し力つきて漂着した鳥にも出会うことがあります。一例として、2013年から2017年までほぼ毎月1回茨城県の波崎海岸の砂浜を約1 km歩いた時に見つけた漂着鳥をリストアップしてみました（別表）。陸地では、見かける機会の少ない海鳥が多く含まれています。

別のパネルで紹介したハシボソミズナギドリをはじめ、ハイイロミズナギドリ、オオミズナギドリ、コアホウドリなどの外洋性の鳥や、ミツユビカモメ、ウミネコ、カモメなどカモメ類、ハシブトウミガラス、ウトウなどのウミスズメ類、アカエリカイツブリやカンムリカイツブリなどのカイツブリ類、シロエリオオハムやオオハムなどのアビ類など多くの海鳥類のほか、ツツドリやムクドリなど陸域の鳥や飼育鳥のニワトリも海岸線に打ち寄せられていました。



表. 茨城県波崎海岸への漂着鳥リスト
(2013年～2017年、茨城県波崎海岸)

科	種和名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カモ	カルガモ	-	-							○	○	○	
	コガモ	-	-									○	
	クマガモ	-	-			○							
カイツブリ	アカエリカイツブリ	-	-	○		○							
	カンムリカイツブリ	-	-	○		○	○						○
	ハジロカイツブリ	-	-										○
アビ	アビ	-	-		○				○				
	オオハム	-	-		○	○	○						
	シロエリオオハム	-	-	○	○	○	○	○	○	○		○	
	ハシジロアビ	-	-	○									
アホウドリ	コアホウドリ	-	-		○				○	○	○	○	
	クロアシアホウドリ	-	-						○				
	アホウドリ	-	-								○		
ミズナギドリ	フルマカモメ	-	-	○		○	○	○		○	○	○	○
	オオミズナギドリ	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ハイロミズナギドリ	-	-		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ハシボソミズナギドリ	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○		
ウミツバメ	オーstonウミツバメ	-	-		○								
	ハイロウミツバメ	-	-	○		○		○					
ウ	カワウ	-	-	○				○					
	ウミウ	-	-	○		○	○		○			○	○
クイナ	オオバン	-	-									○	○
カッコウ	ツツドリ	-	-				○						
チドリ	シロチドリ	-	-			○							
カモメ	ミツユビカモメ	-	-	○		○		○	○				○
	ウミネコ	-	-	○	○	○	○	○	○				○
	カモメ	-	-	○			○						
	セグロカモメ	-	-	○	○	○			○			○	
	オオセグロカモメ	-	-	○	○	○	○	○	○	○			
トウゾクカモメ	トウゾクカモメ	-	-		○								
ウミスズメ	ハシブトウミガラス	-	-			○							
	ウミスズメ	-	-			○		○					
	ウトウ	-	-	○	○	○	○						
カラス	ハシブトガラス	-	-				○						
	ムクドリ	-	-				○						
飼育鳥や外来種	ニワトリ	-	-			○	○		○				
	ドバト	-	-			○	○		○		○		

※1月、2月は観察なし

※斃死した漂着鳥の記録(骨化したものを含む)であるため、各種の調査地域における生息時期と必ずしも一致していません。

ビーチコーミングで海鳥と出会う（その3） ービーチコーミングで海鳥を拾うー

漂着した^{へい し ちょう}斃死鳥は、すぐにカラスやカモメの仲間、イヌ、タヌキ、昆虫などによって食べられ分解が始まります。食べ残されたタンパク質や脂肪分は細菌により分解され、やがて砂や波に洗われ、最後に白い骨格が残ります。

こうした斃死鳥を拾い、分解の各段階に応じて適した処理をすることで、鳥類標本として役立てることができます。

漂着直後の新鮮な斃死鳥は、^{はく せい ひょうほん}剥製標本として羽毛全体を残すことができます。しかし、漂着して時間が経つと皮膚が分解し羽毛が抜けてしまい剥製標本作製することはできません。

こうした段階のものでも、^{じょにく}除肉し洗浄処理することで、骨格標本として役立てることができます。

作製した標本を比べてみることで、鳥の形態や生態に関するさまざまな情報を得る事ができます

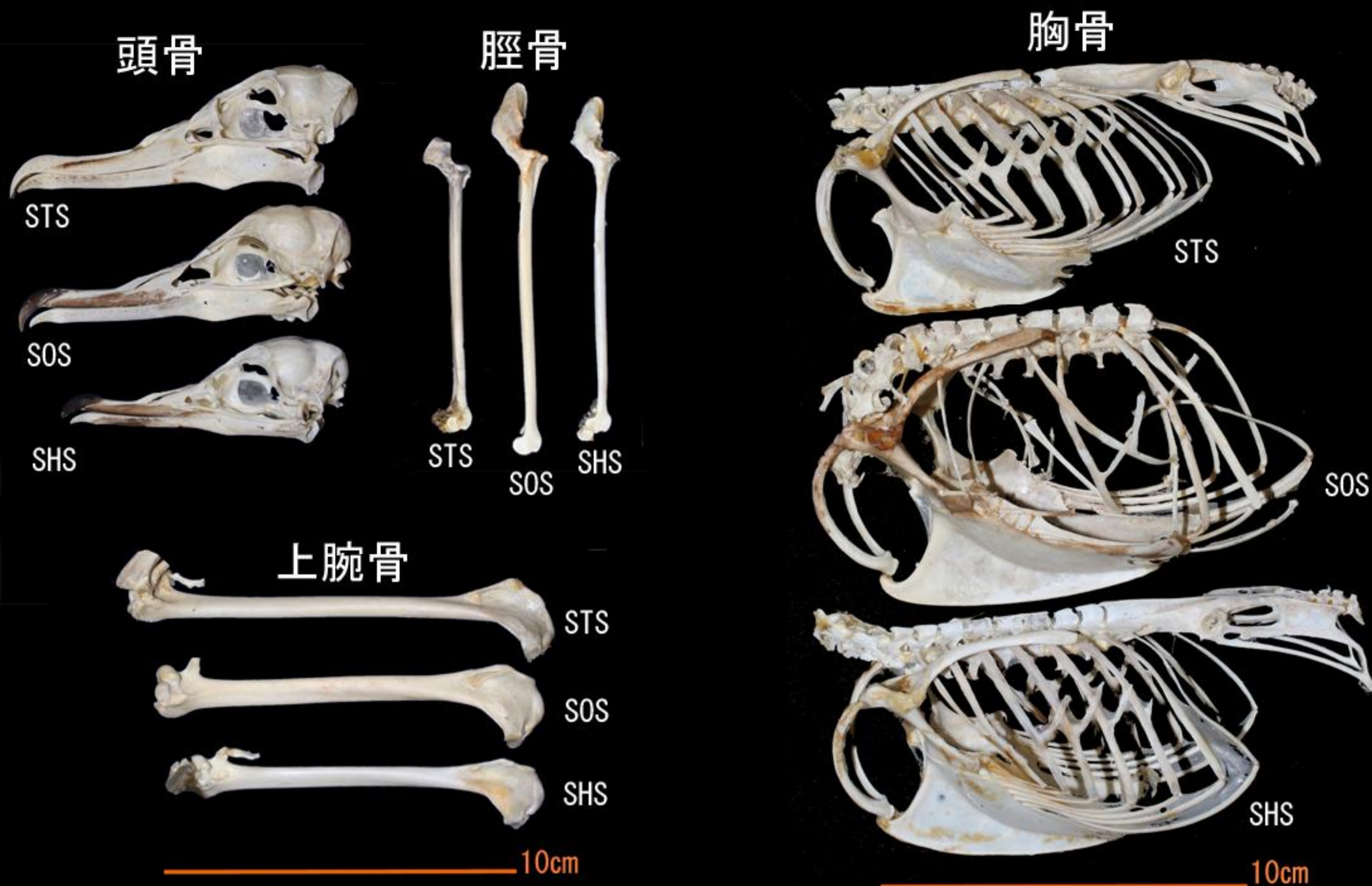


2012/6/4 ハシボソミズナギドリ

※ 斃死鳥（怪我や事故で死んでしまった鳥）を拾う場合には次のことに注意しましょう。

- ・種の保存法（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）や鳥獣保護管理法（野生の鳥は基本的に捕獲できません）を遵守すること。種の保存法の対象種は、羽毛など個体の一部でも移動には手続きが必要です。
- ・各種感染症に注意しましょう。特に鳥インフルエンザが発生し、野鳥監視重点区域に指定された場合には、各都道府県の指針に従いましょう。

※標本には無限の情報が含まれていて、しっかり保存管理すれば人類の共有財産になります。漂着鳥を発見した時は、自然史系の博物館に相談してみるのもよいでしょう。



(凡例)
 STS: オオミズナギドリ (茨城県神栖市波崎、2015/9/13)
 SOS: ハイイロミズナギドリ (茨城県神栖市波崎、2016/4/24)
 SHS: ハシボソミズナギドリ (茨城県神栖市波崎、2016/4/24)

(凡例)
 STS: オオミズナギドリ (茨城県神栖市波崎、2015/9/13)
 SOS: ハイイロミズナギドリ (茨城県神栖市波崎、2016/4/24)
 SHS: ハシボソミズナギドリ (茨城県神栖市波崎、2016/4/24)



ハシボソミズナギドリ
 (茨城県神栖市波崎、2016/4/24)

ハイイロミズナギドリ
 (茨城県神栖市波崎、2016/4/26)

ビーチコーミングで海鳥と出会う（番外編） —海鳥以外の漂着物アルバム—

茨城県波崎の海岸で見かけた海鳥以外の漂着物の一部をご紹介します。海の生き物のほか、外国から流れ着いた物など、さまざまな漂着物が含まれています。

これらの漂着物は、なぜ漂着したのか調べれば調べるほど疑問が湧き、私たちの想像力を刺激します。



ココヤシ

南方の「名も知らぬ遠き島より」黒潮に乗って流れ着いた漂着物。ココナッツジュースを飲むために開けたと思われる穴があるものもあり、案外近くのレストランからの漂着があるかも知れません。



カツオノエボシの浮袋

透明で青色の人工物のような浮き袋です。デンキクラゲの異名を持つほど刺されると大きなダメージを受けてしまう危険なクラゲです。



ウレカラ

甲殻類（こうかくるい）の仲間、海藻の表面などに付着しています。海藻とともに砂浜に打ち上げられたものです。



ツメタガイの
開けた穴

ツメタガイの
卵塊（砂茶碗）

ツメタガイ

この貝の産む卵塊は「砂茶碗（すなじゃわん）」と呼ばれ、砂浜によく打ち上げられています。他の二枚貝にヤスリのような舌で直径2mmほどの孔を開け、内部の肉を食べます。



白樺浮き

白樺の樹皮で作られた浮き。どこで使われているのか詳しいことはよく分かっていません。日本海側の海岸でよく見つかるそうですが、太平洋岸の波崎海岸でもしばしば見られます。



ガラス浮きとカエル浮き

延縄（はえなわ）漁の浮き玉。最近はプラスチックの浮きが使われるため、ガラス浮きはめったに目にすることはありません。プラスチック製の浮きは形から「カエル浮き」の愛称があります。